

アナフィラキシーに対する自己注射が可能な
エピネフリン製剤使用に関するプロトコル

平成 22 年 2 月 1 日策定

平成 25 年 2 月 6 日改定

平成 26 年 2 月 6 日改定

平成 27 年 2 月 3 日改定

平成 28 年 2 月 2 日改定

令和 7 年 2 月 18 日改定

山形県救急業務高度化推進協議会

救急救命士のエピネフリン製剤（エピペン）使用に関するプロトコル

「救急救命処置の範囲等について」の一部改正について」（平成 21 年 3 月 4 日付け消防救第 60 号消防庁救急企画室長通知）及び「消防機関における自己注射が可能なアドレナリン（エピネフリン）製剤の取扱いに関する検討会」報告書の公表について」（平成 21 年 8 月 17 日付け消防救第 183 号消防庁救急企画室長通知）を踏まえて、アナフィラキシーが強く疑われる傷病者で、予め自己注射可能なエピネフリン製剤（以下「エピペン」という。）を交付されている者に対し、救急救命士がエピペンを使用する場合の対応について、次によるものとする。

1 対象となる傷病者

アナフィラキシーが強く疑われる傷病者で、あらかじめ自己注射が可能なエピペンの処方を受け、実際に所持している傷病者を対象とする。

2 処置者の優先順位

医師によりエピペンを処方されている傷病者で、アナフィラキシーが強く疑われる場合において、救急救命士が実施できる症状よりも、前駆症状の段階でエピペンを使用する可能性が十分にあることから、使用の優先順位を次のとおりとする。

- (1) エピペンの処方を受けている本人の処置
- (2) 医師から処方内容や使用方法を伝授されている家族の処置
- (3) 保護者から情報提供を受けている次の①～②の職員の処置（各施設の管理下にある場合）
 - ① 学校（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校）の教職員
 - ② 保育所、認定こども園または放課後児童クラブ等の職員
- (4) 前記(1)、(2)、(3)が困難な状況において、救急救命士の処置

3 救急救命士のエピペン使用に係る適応（アナフィラキシーガイドライン 2022 より）

以下の(1)～(2)のいずれかに該当し、かつ前項 2 (4)に該当すること。

- (1) 皮膚、粘膜、またはその両方の症状（全身性の蕁麻疹、掻痒または紅潮、口唇・舌・口蓋垂の腫脹など）が急速に（数分～数時間で）発症し、次の A～C のうち少なくとも 1 つを伴う場合
 - A 重度の呼吸器症状（例：呼吸困難、呼気性喘鳴・気管支攣縮、吸気性喘鳴、PEF 低下、低酸素血症など）
 - B 血圧低下または臓器不全に伴う症状（例：筋緊張低下 [虚脱]、失神、失禁など）
 - C 重度の消化器症状（例：重度の痙攣性腹痛、反復性嘔吐など [特に食物以外のアレルゲンへの曝露後]）
- (2) 典型的な皮膚症状を伴わなくても、当該傷病者にとって既知のアレルゲンまたはアレルゲンの可能性がきわめて高いものに曝露された後、A または B または C が急速に（数分～数時間で）発症した場合
 - A 血圧低下（収縮期血圧が以下の数値未満、または本人のベースライン値に比べて 30% を超える収縮期血圧の低下）
 - ア 成人（11 歳以上）：90 mmHg 未満

- イ 乳児および10歳以下の小児： $(70 + 2 \times \text{年齢})$ mmHg未満
- B 気管支攣縮
- C 喉頭症状（例：吸気性喘鳴、変声、嚥下痛など）

4 エピペン使用前の確認事項

- (1) 通常の救急活動と同様に反応（意識）、呼吸、循環の観察と適切な処置を行う。
なお、傷病者の状態が心肺蘇生法の開始基準に合致する場合は、速やかに心肺蘇生法を実施すること。
- (2) 救急救命士によるエピペンの使用については、医師の包括的指示による。
なお、傷病者の状態等からエピペンを使用すべきか判断がつかない場合は、医師に助言を求めること。

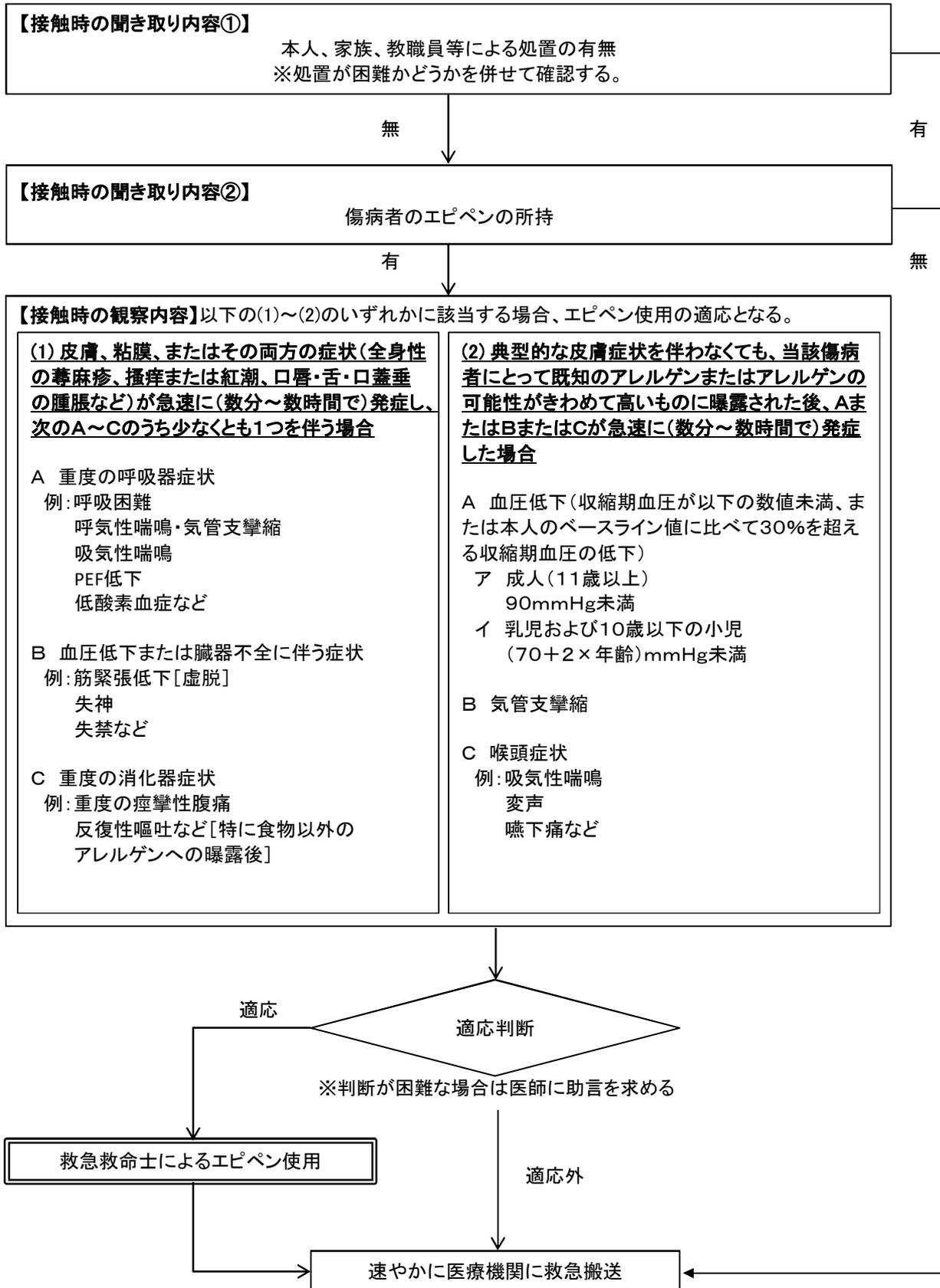
5 エピペン使用時の手順及び留意事項

- (1) エピペンを使用する前に使用期限、薬剤の変色、沈殿物の有無を確認するとともに、エピペン貼り付けの連絡シートにより傷病者本人のものであることを確認する。
- (2) エピペンの先端に指や手を当てることなく、中央部を持って使用する。
- (3) エピペンは、傷病者の太ももの前外側の皮膚に直角に強く押し当て、注射液が確実に注入されるよう5秒間保持する。
- (4) 注射が終わったら、ニードルカバーが伸びていることを確認し、注射した箇所を数秒間揉む。
※ ニードルカバーが伸びていない場合は、当該エピペンを用いて再度注射を実施する。
- (5) 使用したエピペンは、ハザードボックスに入れ、搬送先病院へ持参し破棄を依頼する。

6 エピペン使用後の確認事項

エピペンを使用した場合は、使用状況や使用後の容態等について、搬送先医療機関の医師等にその状況を遺漏なく報告する。

救急救命士のエピネフリン製剤(エピペン)使用フローチャート



【参考】エピペン使用後の情報伝達の流れ

